

おおくまてっこうしょ 大隈鐵工所（現・オークマ）と名古屋帝国大学

本社を愛知県丹羽郡大口町に置くオークマ株式会社（以下、オークマ）は、1898（明治31）年に大隈榮一が名古屋市に設立した大隈麵機商会に始まる、日本屈指の工作機械メーカーです。

現在、東山キャンパスでは、オークマの寄附による「オークマ工作機械工学館」の建設が進んでおり、2020（令和2）年4月から供用が始まる予定です。名大は、かねてよりオークマとの連携を進めており、2015（平成27）年には「オークマ工作機械工学寄附講座」が設置されました。

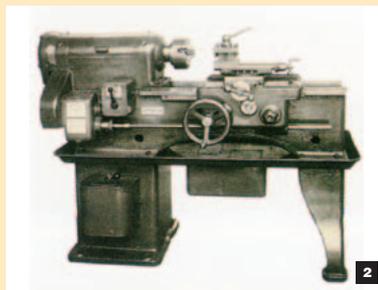
オークマと名大の関わりは、実は1939（昭和14）年に名古屋帝国大学として創立された当時にまでさかのぼることができます。

1941年11月、愛知県科学技術振興会が発足しました。これは県の寄附金による研究支援団体で、その学術委員長に澁澤元治名帝大総長が就任するなど、名帝大の教官が活動の中心になっていました。大隈鐵工所

（1916年に大隈麵機商会から改称）は、同振興会の支援の下、名帝大工学部の久恒中陽教授の指導を受け、航空機用部品の高速切削を目的とする「戦時形（L形）3番普通旋盤」の開発に成功しました。澁澤総長は回想録で、同振興会によって成果を挙げた代表的なものの一つとして、この旋盤の主軸受にアルミニウム合金を代替材料として使用する研究を挙げています。

1942年6月には、大隈榮一大隈鐵工所社長が、「株式会社大隈鐵工所奨学金」を名帝大に寄附しました。その目的は、「工学部応用力学に於ける旋盤の強度に関する実験的研究費」とされています。

第二次世界大戦後、名大から多くの学生が大隈鐵工所（1991年にオークマへ改称）に就職しました。その中から、前田 豊（1991～1994年、工学部卒）、柏 淳郎（1994～2006年、経済学部卒）、花木義麿（2006～2019年、工学部卒、現・代表取締役会長）という3人の社長を輩出しています。



- 1 名帝大工学部金属工学科（金属工学教室）の入口に立つ久恒中陽教授。1965年に定年退官後、市立名古屋科学館長、大同工業大学長を務めた。
- 2 戦時形（L形）3番普通旋盤（写真：オークマ株式会社提供）。「非真円平軸受」の採用により、最高主軸回転数毎分1,200回転を実現し、5社で構成する名古屋旋盤第1集団で年間1,800台が生産された。
- 3 大隈榮一（1870～1950、写真：オークマ株式会社提供）。佐賀県出身。大隈鐵工所を一代で日本を代表する工作機械メーカーに発展させた。
- 4 建設工事中のオークマ工作機械工学館（2019年12月9日撮影）。写真左端が工学研究科1号館、右端が四谷通。
- 5 オークマ工作機械工学館の完成イメージ図。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特定基金

名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。



ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office（DO室）あて（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）をお願いいたします。

詳しくはホームページをご覧ください。

アクセスはこちらから

名古屋大学基金

<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/>

